



第22期 半期例会 レジメ

平成25年1月25日
株式会社ヘルメスシステムズ

一月半前の私の政経情勢の予測が全て当るという事態は、その予測が日本にとって好ましからざるものでしたから誠に残念です。但し、情勢分析の正しさも証明されたことにはなり、少しトレースしてみますので前回のレジメをホームページ等で確認してみてください。

1. 米国は財政難

オバマ大統領は「財政の崖(fiscal cliff)」を法律上で切り抜けましたが、依然として**財政難**です。米国は軍事費削減により、世界の警察の役目を果たせず、アルジェリアのテロで日本人も犠牲になりました。仏領植民地であった頃からフランスの手にも負えないのです。

2. 欧州は経済危機

英国は国民の1／3がEU反対です。キャメロン首相はEU離脱の国民投票をすると発表しました。**EUの危機**が訪れているのです。確かに今は円安に振れていますので、輸出産業は一服感があるでしょう。しかし、それでも欧州への輸出は振るわないでしょう。

3. 中国は崩壊に向かう

近習平政権は覇権主義です。尖閣諸島周辺では航空自衛隊のスクランブル発進は異常頻度を示し、海上でも海中でも領海侵犯の頻度が高まっています。いずれ日本との交戦が発生すると見た米国は、水面下で両国を牽制しました。つい最近の話です。

日本に中国の脅威が迫っているという事は、反面、そうせざるを得ない**中国の内部矛盾**があるからです。皆さんも気付かれたと思いますが、オスプレイの沖縄配備は中国の崩壊時に米国人を救出する為に配備されています。中国在留邦人13万8千人は救出されません。

また、このままでは中国の核の脅しに日本は屈してしまいますので、日本人は核アレルギーを捨てねばならなくなります。

4. 朝鮮は今も戦争の脅威にある

先日、北朝鮮はミサイル発射を強行し、その残骸を収集した韓国軍は多くの部品が中国製である事を確認しました。また昨日、北朝鮮は核実験の準備が整ったと発表しました。1960年代の中国の砂漠地方での執拗な核実験で日本は汚染され続けていましたが、左傾化したマスコミはまともに報道をして来ませんでした。

対馬海峡を隔てるだけの隣国の核実験は、誰も言いませんけれど、原発事故以上の放射能脅威があるのです。北朝鮮が崩壊すると中国は困るのです。ですから国連が制裁決議をしても、中国が隠れて支援するので効果はありません。

38度線で対峙する韓国は、ソウルが火の海になることは自国が赤化することを意味することを承知しています。米軍の辺野古移転がなくなれば米軍基地の自国引入を韓国は許容します。しかし、米軍は財政難で撤退してゆくことを選択する以上、空白は日本が埋めなければなりません。

5. 日本は尋常ではない

安倍政権は原発へのテロ対策の必要性を発表しましたが、単なるテロ対策ではなく戦争を想定しているのです。昨秋の国のパブリック・コメントに私が書いた通り、想定をしたら具体的に武力行使の備えをする必要があります、経済政策ともなります。

ついに東京電力の元会長と社長は住民から刑事訴訟を受けました。震災後に東電に私はメールを送って、原子力賠償法を遵守するように求めましたが、民主党政権に屈した東電は国有化され貿易収支を赤字転落させ、日本の産業にとって何一つ良いことはありません。

6. 当社の対応

無能な日銀も、やっとインフレターゲットで2%アップを目標とするようです。しかし、デフレ基調は、私は変わらないと思います。一方、その為の金融政策は「金融緩和」ですし、急激な金利上昇も無いとみて、当社は銀行借入を増額します。償還の近い社債は、より低利の長期借入金に転換します。

次ぎに、資本政策として、かねて申し上げた通り資本を 1.25 億円に増やし、対外信用力をさらに強化します。増資したお金で社員の増員を計ります。市場ではリストラ風が衰えないでしょうから、中途採用も積極的に考えます。所謂、**会社のパワーアップ**を実施します。

7. 会社の現状

今 2 2 期も半分が終了しました。今日は新しくお迎えした社員各位の歓迎会が開かれます。また、内定者集合研修が今日から始まります。さらに、来月からは免許皆伝者（応用情報処理試験合格者）の新人による早期集合研修も開始されます。

今期の後半戦は新しい人達を迎え、**活気ある職場**になると思います。半年後には予算達成となるよう、皆様と共に元気よく走り抜けて参りましょう。

【会社データ】

第 2 2 期の P L (2012/12/31 時点)

売 上 高	1 億 1, 7 2 0 万円 (通期予算達成率 42%)
販管費等	1 億 1, 5 7 5 万円 (前年より 2 8 % 増)
営業利益	1 4 5 万円 (半期で黒字転換)
経常利益	1 9 4 万円
当期純損益	1 7 6 万円

第 2 2 期の B S (2012/12/31 時点)

流動資産	1 億 1, 5 1 7 万円 (前期末より 59 万円減)
(内、現預金)	6, 7 8 5 万円 (前期末より 983 万円減)
固定資産	2, 3 7 6 万円 (当期形成分含まず)
資産合計	1 億 4, 3 9 0 万円 (前期末より 139 万円増)
流動負債	1, 8 5 7 万円 (期首より 259 万円増加)
固定負債	2, 8 2 0 万円 (前期末より 96 万円減)
負債合計	4, 6 7 7 万円 (前期末より 163 万円増)
資 本 金	1 億円 (3/末迄に 1.25 億円に増)
純資産合計	9, 7 1 3 万円 (自己資本比率 67.5%)